

## 編集委員会から

### 新編集委員会から

第26巻第4号から日本食品工学会誌編集委員長として編集業務を担当させていただくことになりました、五月女格です。どうぞよろしくお願いいたします。

前任の田中孝明編集委員長の時代には、一編集委員として携わらせていただきました。田中孝明先生、また前々編集委員長の山本修一先生には、副編集委員長にご就任いただき、編集業務に関するアドバイスをいただいております。また多くの前編集委員の皆様にも、今期も続投いただきまして、早速、編集業務を支えていただいております。

日本食品工学会誌は、2000年の創刊以来、食品工学分野の学術的基盤を支える媒体として、研究論文、技術紹介、解説記事など、多様な成果発表の場を提供してまいりました。食品工学は、食品科学、機械工学、化学工学、情報工学、生物資源工学などの広範な分野を融合する学際領域であり、本誌はその知の交差点として重要な役割を果たしてきました。また近年、学術出版の世界では、オープンアクセス化やXML化など、学会誌の電子化・国際化に関わる大きな変革が進みました。日本食品工学会誌においても、これらの取り組みは前々編集委員長の山本修一先生、前編集委員長の田中孝明先生のご尽力により、その道筋が明確に示されました。編集委員会としては、その成果を引き継ぎつつ、本誌の利便性と発信力をさらに高めていくよう努めてまいります。

また、日本食品工学会の活動の特色の一つに、インダストリー委員会による産業界との連携があります。本誌でもこれまで、「注目しています。その技術！」などのコーナーを通じて、企業や研究機関における新しい技術・製品開発の動向を紹介していただいております。こうした取り組みは、学術と産業をつなぐ食品工学の性格をよく表しており、今後も引き続き、産業界からの積極的な情報発信の場として発展させていきたいと考えております。

26年の歴史を有する日本食品工学会誌を食品工学研究・技術の交流の場として、継続・発展させていきたいと思っておりますので、皆様のご投稿をお待ちしております。ぜひともご協力をお願いいたします。

(東京大学 五月女格)